

姫路獨協大学の平成 24 年度決算と平成 25 年度予算について

平成 24 年度決算について

(1)消費収支(表1)(表5)

平成 24 年度の帰属収入は、予算対比 99 百万円増の 35 億 26 百万円となりました。これは、予算に比べ学生数が増加したことによる学生生徒納付金収入の増が主な要因となっています。

基本金の組み入れは、北グラウンドクラブハウス整備等により 39 百万円となりました。これにより、帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入は、予算対比 1 億 20 百万円増の 34 億 87 百万円となりました。

一方、消費支出は、予算対比 9 百万円増の 40 億 75 百万円となりました。予算対比で大幅な教育研究経費の節減を行いましたが、退職者数の増加により人件費が超過したことが主な要因となります。この結果、消費収支差額が 5 億 88 百万円の支出超過となり、平成 25 年度への繰越消費支出超過額は 74 億 47 百万円となります。

(2)資金収支(表2)

次年度繰越金は 22 億 66 百万円となり、予算対比では 3 億 71 百万円の増加、平成 23 年度末の繰越金からは、1 億 39 百万円の増加となりました。

平成 25 年度予算について

(1)消費収支(表3)(表6)

帰属収入については 34 億 26 百万円で、平成 24 年度予算対比で 1 百万円減になります。これは学生数の減少による学生生徒納付金の減少を見込む一方で、学内ネットワークシステム更新事業に伴う補助金収入を見込んだことによります。基本金の組み入れは、創立 25 周年記念事業の一環として構内中庭中央広場および講義棟外装の全面改修等を行うため、平成 24 年度予算対比で 6 億 93 百万円増の 7 億 53 百万円となります。帰属収入からこの基本金組入額を控除した消費収入は、平成 24 年度予算対比で 6 億 94 百万円減の 26 億 73 百万円となります。

消費支出については、人件費の削減及び教育研究経費、管理経費の抑制を進めることにより、平成 24 年度予算対比で 1 億 50 百万円減の 39 億 16 百万円となります。この結果、消費収支差額は 12 億 43 百万円の支出超過となる見込みです。

(2)資金収支(表4)

施設設備資金は創立 25 周年記念事業の一環として構内中庭中央広場および講義棟外装の全面改修等を行う計画があることから、7 億 54 百万円となります。平成 24 年度末の繰越金からは、2 億 81 百万円の減少となる見込みです。

◇主要な用語について

●**帰属収入**:当該年度に純粹に帰属する収入との意味で、資金収支計算書にある他人資金の借入金や次年度分の授業料等の前受金などは計上されない。

●**学生生徒納金**:授業料、入学金、施設設備費、その他の実習費等。

●**手数料**:入学検定料、証明手数料。

●**補助金**:国や地方公共団体の他、日本国際教育協会からの援助金収入。

●**雑収入**:退職金財団からの交付金を含む。

●**基本金組入額**:学校会計では、帰属収入からまず、学校の基礎となる資産と資金、将来計画のための資金、基金として継続的に保持する資産、恒常的安定経営のための資金の4項目を基本金として帰属収入から確保し、残りを消費支出として運営に充てるように規定している。

●**消費支出**:当該年度において消費される人件費、経費等と資金の移動を伴わない退職給与引当金繰入額、減価償却額が計上される。

●**人件費**:専任の教員、職員及び非常勤の教員、アルバイト、パートの職員に関わる給与、賞与、各種手当、並びに健康保険、労働保険などの大学負担分(所定福利費)と、退職給与引当金繰入額の総額。

●**教育研究経費**:教育研究に直接要する経費のほか、教育研究を補助するための事務費、学生厚生に要する経費、入学試験を実施するための経費、これらの諸活動を行う施設設備を維持するための経費、その施設設備に係わる減価償却額が計上される。

●**管理経費**:大学を運営する総務、人事、経理及び対外的な広報活動に要する経費、教育研究に当たらない事業に要する経費、これらの諸活動を行う施設設備を維持するための経費、それに係わる減価償却額が計上される。

●**消費収支差額**:帰属収入から基本金組入額を差し引いた消費収入と、消費支出の合計の差。消費収支差額が支出超過の場合、学校会計では基本金という独自の考え方があり一概に赤字経営と決めつけることはできないが、収支のバランスを欠いているということはいえる。

平成24年度 決算

平成24年度 消費収支内訳表

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

(表1)

(単位:百万円 端数未調整)

収 入 の 部				支 出 の 部					
科 目	平成24年度 予算額(A)	平成24年度 決算額(B)	増 減 (A-B)	科 目	平成24年度 予算額(A)	平成24年度 決算額(B)	増 減 (A-B)		
学生生徒等納付金	2,818	2,884	81.8%	△ 66	人件費	2,054	2,213	54.3%	△ 159
手数料	44	39	1.1%	5	教育研究経費	1,654	1,522	37.3%	132
寄附金	5	11	0.3%	△ 6	管理経費	281	271	6.7%	10
補助金	378	362	10.4%	16	法人負担金	57	59	1.4%	△ 2
資産運用収入	39	39	1.1%	0	借入金等利息	0	0	0.0%	0
資産売却差額	0	2	0.1%	△ 2	資産処分差額	0	10	0.2%	△ 10
事業収入	30	43	1.2%	△ 13	[予備費]	20		0.0%	20
雑収入	38	84	2.4%	△ 46	消費支出の部合計	4,066	4,075	100%	△ 9
法人負担金収入	75	62	1.8%	13	当年度消費収支差額	△ 699	△ 588		△ 111
帰属収入合計	3,427	3,526	100%	△ 99	前年度繰越消費収支差額	△ 6,859	△ 6,859		
基本金組入額合計	△ 60	△ 39		△ 21	翌年度繰越消費収支差額	△ 7,558	△ 7,447		
消費収入の部合計	3,367	3,487		△ 120					

平成24年度 資金収支内訳表

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

(表2)

(単位:百万円 端数未調整)

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	平成24年度 予算額(A)	平成24年度 決算額(B)	増 減 (A-B)	科 目	平成24年度 予算額(A)	平成24年度 決算額(B)	増 減 (A-B)
学生生徒等納付金収入	2,818	2,884	△ 66	人件費支出	2,072	2,170	△ 98
手数料収入	44	39	5	教育研究経費支出	1,091	971	120
寄附金収入	5	8	△ 3	管理経費支出	256	245	11
補助金収入	378	362	16	法人負担金	57	59	△ 2
資産運用収入	39	39	0	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	0	100	△ 100	借入金等返済支出	0	0	0
事業収入	30	43	△ 13	施設関係支出	50	40	10
雑収入	38	84	△ 46	設備関係支出	127	21	106
法人負担金収入	75	62	13	資産運用支出	1,818	1,821	△ 3
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	202	229	△ 27
前受金収入	430	430	0	[予備費]	20		20
その他の収入	1,903	1,948	△ 45	資金支出調整勘定	△ 157	△ 235	78
資金収入調整勘定	△ 456	△ 539	83	次年度繰越支払資金	1,895	2,266	△ 371
前年度繰越支払資金	2,127	2,127	0	支出の部合計	7,431	7,587	△ 156
収入の部合計	7,431	7,587	△ 156				

平成25年度 予算

平成25年度 消費収支予算内訳表

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

(表3)

(単位:百万円 端数未調整)

収入の部				支出の部					
科目	平成25年度 予算額(A)	平成24年度 予算額(B)	増減 (A-B)	科目	平成25年度 予算額(A)	平成24年度 予算額(B)	増減 (A-B)		
学生生徒等納付金	2,723	79.5%	2,818	△ 95	人件費	2,064	52.7%	2,054	10
手数料	39	1.1%	44	△ 5	教育研究経費	1,488	38.0%	1,654	△ 166
寄附金	6	0.2%	5	1	管理経費	265	6.8%	281	△ 16
補助金	438	12.8%	378	60	法人負担金	77	2.0%	57	20
資産運用収入	42	1.2%	39	3	借入金等利息	2	0.1%	0	2
資産売却差額	0	0.0%	0	0	資産処分差額	0	0.0%	0	0
事業収入	27	0.8%	30	△ 3	[予備費]	20	0.5%	20	0
雑収入	26	0.8%	38	△ 12	消費支出の部合計	3,916	100%	4,066	△ 150
法人負担金収入	125	3.6%	75	50	当年度消費収支差額	△ 1,243		△ 699	△ 544
帰属収入合計	3,426	100%	3,427	△ 1	前年度繰越消費収支差額	△ 7,558		△ 6,859	
基本金組入額合計	△ 753		△ 60	△ 693	翌年度繰越消費収支差額	△ 8,801		△ 7,558	
消費収入の部合計	2,673		3,367	△ 694					

平成25年度 資金収支予算内訳表

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

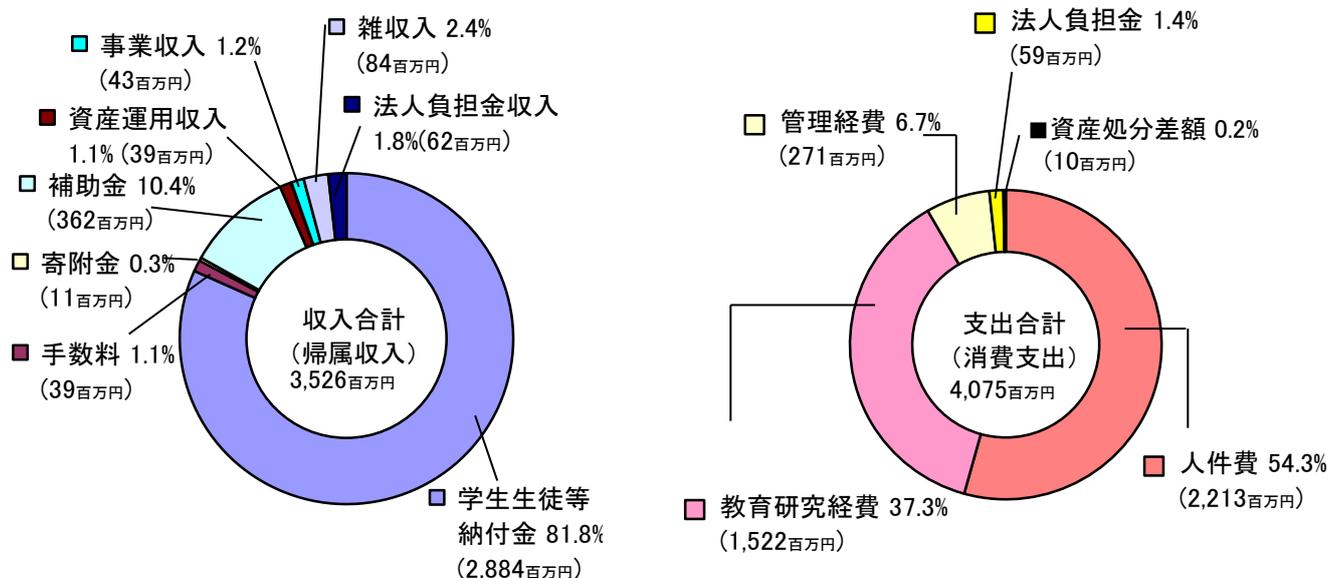
(表4)

(単位:百万円 端数未調整)

収入の部				支出の部			
科目	平成25年度 予算額(A)	平成24年度 予算額(B)	増減 (A-B)	科目	平成25年度 予算額(A)	平成24年度 予算額(B)	増減 (A-B)
学生生徒等納付金収入	2,723	2,818	△ 95	人件費支出	2,060	2,072	△ 12
手数料収入	39	44	△ 5	教育研究経費支出	1,024	1,091	△ 67
寄附金収入	6	5	1	管理経費支出	239	256	△ 17
補助金収入	438	378	60	法人負担金	77	57	20
資産運用収入	42	39	3	借入金等利息支出	2	0	2
資産売却収入	0	0	0	借入金等返済支出	0	0	0
事業収入	27	30	△ 3	施設関係支出	744	50	694
雑収入	26	38	△ 12	設備関係支出	10	127	△ 117
法人負担金収入	125	75	50	資産運用支出	1,819	1,818	1
借入金等収入	456	0	456	その他の支出	249	202	47
前受金収入	475	430	45	[予備費]	20	20	0
その他の収入	1,942	1,903	39	資金支出調整勘定	△ 137	△ 157	20
資金収入調整勘定	△ 473	△ 456	△ 17	次年度繰越支払資金	1,985	1,895	90
前年度繰越支払資金	2,266	2,127	139	支出の部合計	8,092	7,431	661
収入の部合計	8,092	7,431	661				

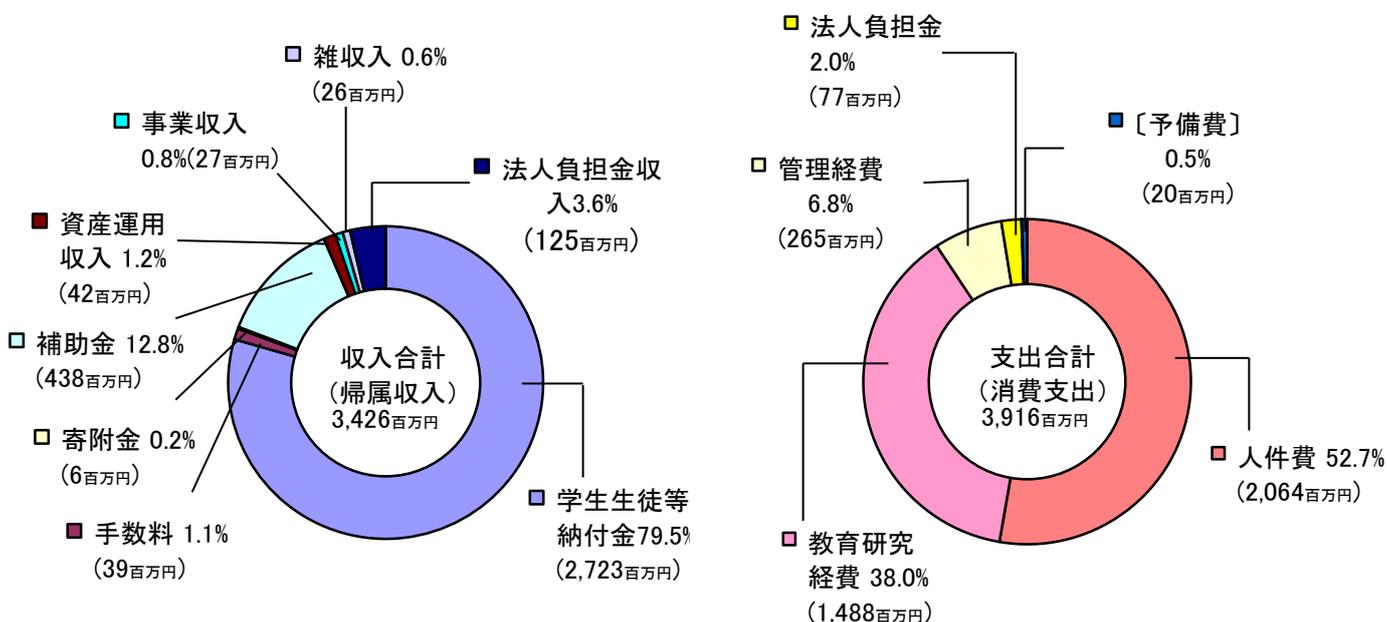
(表5)

平成24年度 消費収支決算 科目別構成



(表6)

平成25年度 消費収支予算 科目別構成



〔姫路獨協大学〕

1. 予算編成の基本方針及び概要等

大学を取り巻く環境は厳しさを増しています。日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センターによる「平成 24（2012）年度私立大学・短期大学等入学志願動向」の発表によれば、入学定員充足率が 100%未満の大学が、昨年度より 41 校増加して 264 校となり、大学全体に占める未充足校の割合は 45.8%となっています。

本学も入学定員充足率の改善を図るため、平成 24 年度から文系 3 学部（外国語学部、法学部及び経済情報学部）の入学定員を現況に見合ったものとなるよう、それぞれ 50 人ずつ削減し、大学全体の入学定員を 840 人から 690 人に調整しました。さらに、平成 25 年度から薬学部の入学定員を 120 人から 100 人に削減することも決定しました。

本学では、平成 24 年 9 月に「姫路獨協大学 基本計画第 7 次見直し（以下「基本計画」と表記）」を作成しました。基本計画では平成 30 年度までの財務計画において、学生の学習環境の充実を図るため積極的な施設・設備関係の改修を計画する一方で収入に見合った支出構造を年次計画的に構築することによりキャッシュフローの安定的な維持を図ることが主な内容となっています。

基本計画の初年度にあたる平成 25 年度予算編成については、学生の学習環境の充実を目的に施設・設備関係の改修を行う一方、教育研究経費及び管理経費を適正な規模に圧縮し、基本計画に沿った収支見込額を上回ることを目途としました。上記の編成方針を踏まえ、収入については基本計画で目標としている入学者で学生生徒納付金収入の計上を行いました。また、補助金収入については学内ネットワークシステム更新に伴う私立大学施設設備補助金 50 百万円を新たに見込んだことなどから、帰属収入については基本計画に比べ 106 百万円増の 3,426 百万円を見込んでいます。

一方、支出については、教育研究経費及び管理経費の総額が、基本計画対比で 78 百万円増となりました。電気料金の値上げに伴う増額を見込んだことなどが主な要因となっています。しかし、人件費については、平成 24 年度の退職者数が当初の見込みより増加することなどから、基本計画に比べ 47 百万円を圧縮できる見込みであり、さらに、奨学費についても、基本計画に比べ 30 百万円の圧縮を行うことから、消費支出の合計は 3,916 百万円となり、基本計画と比べ 33 百万円増を見込んでいます。このようなことから、平成 25 年度予算における帰属収入から消費支出を差し引いた帰属収支差額は 490 百万円の支出超過となり、基本計画に比べ 73 百万円の収支改善を見込んでおります。今後も引き続き、本学の教務面及び財務面から奨学費等の有効な執行方法について検討を重ねる

とともに、教職員による節電への取り組みやコスト意識の徹底を図り、無駄のない予算執行に努め、基本計画で策定した数値目標を達成いたします。

施設・設備関係の支出については創立 25 周年記念事業の一環として、教育環境及び大学生生活環境の改善のため、学生アプローチ、構内中庭中央広場および講義棟外装の全面改修、ならびに講義棟の全教室の内装全面改修、什器（机・椅子）の入れ替えおよび空調設備の更新などを行います。また、情報環境の整備として法人システム（人事給与・会計・資産・学費）及び教務システム（教務・入試・就職・ポータル）において、各担当者によってサブシステムの開発が容易に行えるようデータベースによるシステムに更新します。同時に経年劣化により通信が不安定な箇所が発生していることから、学内ネットワーク及び基幹サーバーの更新を行います。これらの事業経費の一部については、キャッシュフローを維持させる観点から、日本私立学校振興・共済事業団からの融資を受けることとします。限られた財源を有効に配分させることにより高等教育機関として相応しい教育水準を維持し、在学生にとって満足度の高い大学であるとともに、受験生にとっても魅力的な大学であることが本学の使命であり、地域社会からの信頼を、より一層高めることにも繋がると考えています。

2. 主要な事業計画

1) 教学関係

① 奨学事業の有効的な運用の実施

平成 25 年度より、医療保健学部及び薬学部入学予定者のうち、優秀な資質を有する者を対象にした「特待生制度(Ⅱ種)医療保健学部及び薬学部」を新設します。また、従来実施している特待生制度（Ⅰ種）については認定基準の引き上げを行い、今後もさらに模範となる優秀な人材育成を目指し、本学にとって有効的な奨学事業の運用に努めます。

② 魅力ある大学への教育改革等

平成 24 年度から、獨協学園の支援をもとに実施された「姫路獨協大学活性化取組施策」を大いに活用し、本学が魅力ある大学となるための教育改革、学生ケア等をテーマとする先駆的な取り組みを行います。

③ 国家試験対策の強化

薬学部では、普段から国家試験出題基準を網羅した授業の実施や定期試験において国家試験の内容を反映させることで、理解度をチェックし、モチベーションを高めています。6 年次生では、「国家試験対策強化演習」、「国家試験対策

模擬試験」、「個別学習指導」等を実施し、授業時間以外にも試験対策に特化した講義や講演会並びに個々の学生の実力にあわせたきめ細やかな学習指導を随時実施することにより、合格をサポートします。

また、医療保健学部では、平成 21 年度に第 1 期生が卒業し、平成 25 年度で 5 回目の国家試験となります。平成 21 年度～23 年度の国家試験では、いずれも全国平均を上回る合格率を出すことができました。特に、平成 22 年度における言語聴覚療法学科卒業生の国家試験合格率は、100%という良い成績を残すことができました。引き続き、高い合格率を目指した教育・学習指導及びサポートを実施します。

④学習支援センターの充実

学習支援センターにおいて、①基礎学力向上部門、②学習相談部門、③学生データ収集・分析部門、④入学前教育部門、⑤留学生日本語学習支援部門の 5 部門を柱に、さまざまな活動を通して、学生の学習面におけるニーズにきめ細やかに対応し、学生一人ひとりの学びをしっかりとサポートします。

2) 管理・運営関係

①広報活動の強化・充実

オープンキャンパス参加者や志願者等を精査し、各広報媒体の効果検証を行います。また、本学に関心を示した志願者への PR を強化するため、ダイレクトメールの企画を強化し、広報効率を高めます。

この他、大学案内について、在学生や写真コンテンツを多用し、生き生きとした学生生活や活躍を紹介することで、受験生(志願者)により訴求力のある内容になるよう刷新します。

②地域貢献の充実

平成 24 年度から、「獨協講座」として各学部から提供された講座を数多く設け、地域に根ざした大学の役割として、教育成果を社会に還元するため、公開講座のさらなる充実に努めます。

また、「駅前サテライト教室」では、市民を対象とした公開講座を開催するほか、大学院の授業、就職活動の拠点としても活用するなど、生涯学習機能の充実に努めるとともに、地域への貢献に努めます。

3) 施設・設備関係

本学創立 25 周年記念事業の一環として、キャンパスアメニティの充実と向上に向けた計画的な整備等を、次のとおり行います。

① キャンパスアメニティ関連施設の改修

学内の中庭中央広場の改修については、学生の団欒の場、懇談の場として、楽しい一時を過ごせるように設計し、食堂や校舎から見える美しい景観を整えることによって、心を休めリフレッシュするのに最適な環境となるよう整備します。また、医療保健学部棟・薬学部棟への連結橋については、雨天時の歩行者転倒防止等のため、屋根の設置工事を行います。

②授業関連施設の改修

講義棟の教室の改修については、高い機能性と気持ちよく授業に参加するための居住性を両立させた、学びの基本を支える学習空間を提供できるように設計します。

③情報環境の整備

法人システム(人事給与・会計・資産・学費)及び教務システム(教務・入試・就職・ポータル)において、各担当者によってサブシステムの開発が容易に行えるようデータベースによるシステムに更新します。同時に経年劣化により通信が不安定な箇所が発生していることから、学内ネットワーク及び基幹サーバーの更新を行います。

事業名	事業内容	25年度予算
1 教学関係		
【新規事業】		
1) 特待生制度(Ⅱ種)医療保健学部及び薬学部	1) 医療保健学部及び薬学部入学予定者のうち、優秀な資質を有する者に対し、①入学年度の年間授業料の半額免除、②2年次以降は、前年度の成績により、年間授業料の25%を免除する。	5
【継続事業】		
1) 姫路獨協大学活性化取組施策	1) 本学に在職する専任教職員が取組計画書を企画・立案し、事業目的に沿った取組を選考委員会において選考し、実行する。	25
2) 薬学部国家試験対策	2) 薬学部 6 年生の国家試験対策のため、模擬試験及び講習会等を行う。	20
3) 特待生制度(Ⅰ種)	3) 入学予定者のうち、優秀な資質を有する者に対し、①入学年度の年間授業料全額免除、②2年次以降は、前年度の成績により、年間授業料の半額を免除する。	89
4) 特待生制度(Ⅱ種)	4) 入学予定者のうち、優秀な資質を有する者に対し、①入学年度の年間授業料半額免除、②2年次以降は、前年度の成績により、年間授業料の25%を免除する。	2
5) 薬学部「地域連携指定高等学校制度」	5) 入学者のうち、地域連携指定する播州地域の高等学校からの入学者に対し、①入学年度の年間授業料半額免除、②2年次以降は、前年度の成績により、年間授業料の25%を免除する。(中播・東播・西播・北播 72校)	27

事業名	事業内容	25年度予算
6) 特別学業支援奨学金	6) 現行の、主として母子・父子家庭等、経済的に困窮している家庭を対象に支援している「学業支援奨学金」の対象者以外で、経済的理由により学業継続が困難な学生に対し、月額5万円を支給する。	18
7) 緊急支援奨学金	7) 主たる家計支持者が死亡、会社の倒産・解雇・病気により就労困難等で、やむを得ず失職・退職した等の理由により、家計が急変した学生に対して、半期又は全期の授業料相当額を支給する。	2
8) 薬学部早期体験学習	8) 医療施設や製薬企業等の現場の実体験を通じて、“生命の尊厳”や患者の気持ちに配慮する思いやりなど、薬剤師として身につけるべき豊かな人間性を涵養する。	1
9) 薬学部学外実習	9) 5年次生は1～4年次に身を付けた専門知識をもとに病院実務実習・薬局実務実習を行う。	57
10) 医療保健学部学外実習	10) 4年次生は1～3年次に学習した知識・技術、マナーなどを実際の現場において検証する。	51
11) 学習支援センター	11) センター併任教員が基礎学力向上部門、学習相談部門、学生データの収集分析部門、入学前教育部門、日本語学習支援部門において、学生指導を実施する。	2

事業名	事業内容	25年度予算
<p>2 地域関係 【継続事業】</p> <p>1) 駅前サテライト教室</p> <p>2) 公開講座(獨協講座、カルチャーカフェ、シニアオープンカレッジ等)の開催</p>	<p>1) 市民を対象とした公開講座を開催するほか、大学院の授業、就職活動の拠点としても活用する。</p> <p>2) 従来の「外国語講座」に加え、各学部から提供された多数の講座を開講し、地域の方々に学びの場を提供する「獨協講座」と冠名称を変更する。</p>	<p>8</p> <p>4</p>
<p>3 管理・運営関係 【継続事業】</p> <p>1) 新聞広告費</p> <p>2) 大学案内</p>	<p>1) 広報の効率を高めるため、各媒体の効果検証をオープンキャンパス参加者数や志願者数等から精査し、業者・媒体選定を行う。</p> <p>2) 在学生や写真コンテンツを多用し、志願者により訴求力のある内容に刷新する。</p>	<p>63</p> <p>20</p>
<p>4 施設関係 【新規事業】</p> <p>1) 講義棟空調設備改修工事</p> <p>2) 講義棟什器・内装改修</p> <p>3) 事務システムの更新</p>	<p>1) 講義棟の全教室において、空調設備の改修を行う。</p> <p>2) 講義棟の C・D 教室及び B・S 教室の什器・内装の改修を行う。</p> <p>3) 法人システム(人事給与・会計・資産・学費)及び教務システム(教務・入試・就職・ポータル)、証明書自動発行システムの更新を行う。</p>	<p>115</p> <p>123</p> <p>100</p>

事業名	事業内容	25年度予算
4) ネットワークシステム更新	4) SW 類更新(講義棟・本部棟・図書館・医療保健学部棟・薬学部棟)、LAN ケーブル更新(講義棟・本部棟)、基幹サーバー更新を行う。	129
5) 医療・薬学部棟連結橋屋根設置工事	5) 連結橋の形状が坂であり、雨天時に歩行者が転倒する懸念を払拭するため、屋根の設置工事を行う。	10
6) LED照明機器交換工事	6) 図書館1階・食堂1階・本部棟3階の照明機器をLED照明に交換する。	4
7) 講義棟外壁及び中庭中央広場改修整備	7) 講義棟外壁及び中庭中央広場を改修する。また、本部棟外壁についても改修を行う。	263
5 設備関係 【継続事業】 1) 講義棟用備品 2) 図書	1) 経年劣化による取替更新を行う。 2) 資産図書を購入し、図書館の充実を図る。	4 6

以上